

（問）子供が子供らしく育つ環境づくりについて

子供の健全な成長について考えたとき、小学校を卒業するまでは、子供らしくのびのびと遊ぶことが極めて重要だと思うが、今、子供たちには時間がない、空間がない、仲間がない、3つの間という文字、「3間」がないと言われている。

私の子供の頃は、放課後、友達と公園や学校の校庭で暗くなるまでのびのびと遊び、同世代や異世代との人間関係を培い、何が危なく、それにどう対処するのかを、日々の生活の中で吸収してきたが、今日では、外で遊ぶ場所がなかったり、あっても習い事や塾で遊べない状況で、次世代を担う子供たちが育つ環境としては好ましくないと感じているのは、私だけではないと思う。

本県は、「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を策定し、教育施策の中でコンピテンシーの育成を大きな柱に掲げている。教育におけるコンピテンシーとは、簡潔に言えば、応用力をつけるということだが、応用力は、本来、学校で教えるようなものではなく、遊びを含めた子供時代の体験や経験から少しずつ学び取っていくものだと考える。

福岡市では、放課後等遊び場づくり事業として、小学校の校庭等を利用して、授業終了後に、大人の見守りの中で、自由に安心して遊びができる場や機会づくりに取り組み、その報告書では、集団遊びに慣れていない現代の子供たちも、大人たちの少しのきっかけづくりやヒントで、のびのびと自主的に遊び始め、取組を継続することで、同学年のみならず異なる学年も含めた集団での遊びができるようになったと報告されている。

このような取組は、本来、市町が行うべきものではあるが、県が主体的に方針を示し、市町と協力してモデル事業を実施することは、「人づくり」を大きな柱に据えて、これから取り組もうとしている本県に相応しい事業と考える。

そこで、子供が子供らしくのびのびと育つ環境づくりについて、知事の考えと、今後の取組について、併せて伺う。

(答)

本年10月に策定いたしました「ひろしま未来チャレンジビジョン」では、これからの県内を内外から支え、様々な変化に対応し、社会で活躍できる人材の育成に取り組むこととし、教育施策におきましては、「子供たちが将来にわたってたくましく生きる力を持ち、健やかに育っています」を目指す姿としております。

このためには、学校での教育活動だけではなく、子供たちが遊びや様々な体験から、他者への思いやりや人間関係能力などを学ぶことのできる環境を整備することが有効であると考えております。

具体的な取組としては、市町におきましては、地域住民の参画を得て、子供たちが安全・安心に体験や学習が行える場として「放課後子供教室」が開設され、子供たちのスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流等の活動が行われており、こうした取組に対しまして、県教育委員会では、大学生のボランティアチームである「ワクワク学び隊」の派遣を行い、子供たちの体験活動の幅を広げるなどの充実を図っているところでございます。

私といたしましては、教育委員会が行うこれらの取組を一層支援することにより、子供が子供らしくのびのびと育つ環境づくりに努め、将来にわたって「広島に生まれ、育ち、住み、働いてよかったと思える広島県」の実現に向け、取り組んでまいります。